

私の 経営哲学

100

ラバーマテリアル社長

竹延 清次郎 氏

継続でチャンス拡大

ゴム製品の技術開発会社として約40年。「ゴムを科学する」をコンセプトにゴム製品の機能を最大限發揮。ゴムと高機能材料を複合一体化し、シール機能を向上させる製品の開発を続けている。ラバーマテリアルの竹延清次郎社長は、「経営とは会社の継続。サステナビリティ（持続可能性）を常に考え生き延びることを目指している」と話す。継続の中で落ち込んだり



感激したことがあったりするもの。人間万事塞翁が馬、自分の考えややり方で成功しなくても一喜一憂せず平常心で実践すると好転する。「長年継続しているとチャンスも増える」と前向きなのが信条だ。

同社が培った約40年のゴムや特殊樹脂を組み合わせた設計と製造ノウハウで他社が真似できないダイヤフラムや膨張シールなど多数の製品が生まれた。失敗と成功を繰り返すが「後ろ向きな考えは必要ない。開発も経営も人生も同じだ」と説く。

ゴム製品との出会いは大学の推薦で入社したバルカーのサラリーマン時代。他社より良い製品をつくり会社に貢献したいという仕事に没頭した。入社後に大阪の工場の生産技術部門に配属。現場でゴムの製法や配合など学んだ経験が大きい。当時の

「変わる」外注先と共存共栄

たけのぶ・せいじろう 70年（昭45）佐賀大理工卒、同年日本バルカー工業（現バルカー）入社。ゴム開発センター所長代理などを歴任。84年ラバーマテリアル設立。福岡県出身、76歳。

外注先との付き合いが現在の外注先との共存共栄の経営に生かされている。タッグを組み合わせるに技術を教え、学ぶ姿である。

研究所に移り、当時のテーマであった量産ゴムの開発チームを任された。その中で自身が率先してやるのが好きだと気づいた。将来を見据え自分でやりたい開発を実現するため、1984年にラバーマテリアルを設立。当初は2人でスタートした。このような会社を信頼し、大手家電メーカーから主要部品の開発を頼まれた。責任の重大さを感じつつ期待に応えた。自身の存在価値を見いだし、持続的経営の信念の原点になった。

基本理念は一創夢技人。我が社員には技術がある。創造がある。夢がある。自身の技術を磨き、夢の実現へ新しいものを創造している。22年度の業績は増収増益。23年度の受注残は半年先まで確保する。従来のやり方や材料を変えなければ発展はないと認識。対応する製法などを考案するのが使命。材料の取り方、材料の配合などを変えられる外注先と共存共栄する。その中で新たな外注先との出会いも生まれている。製法を一緒に変えられる外注先とタッグを組み、問題にぶち当たっても乗り越えていく新たな技術に挑み続ける。

（東大阪支局長・香西貴之）